

日韓漢字音の対照研究

－ 母音（中声）の対応を中心に－

金 珉秀*

A Comparative Study of the Sounds of Chinese Letters in Korean and Japanese: Vowels

KIM Minsoo *

Abstract

This paper focuses on the similarity between the sounds of Chinese letters in Korean and Japanese and examines the sounds of Chinese letters in Korean that correspond to the sounds of Chinese letters in Japanese. The correspondence between Chinese letters in Japanese and Korean is considered by focusing in particular on Vowels, and it is demonstrated that there is a regularization in correspondence between Chinese letters in Korean and Japanese.

キーワード：日韓漢字音、対応規則化、母音、中声

1. はじめに

金珉秀（2010）では、日本人韓国語学習者における韓国語漢字語教育の観点から、日本漢字音と韓国漢字音が非常に類似しているところに着目し、特に、子音を中心に日本漢字音「あ行」から「ら行」に対応する韓国漢字音を考察した¹⁾。このように日本語漢字音に対応する韓国漢字音を考察することにより、未学習漢字語の発音を予測できるようになると考えられる。さらに、母語である日本語力を韓国漢字語の学習へ生かせる方法を探ると

いう点で、効率的な学習方法を提案できると考えられる。そこで、本稿では日韓漢字音の母音（中声）を中心にその対応関係を考察することを目的とする。

2. 日本語と韓国語の母音体系

日本語の母音が「ア、イ、ウ、エ、オ」の5つであるのに対し、韓国語の標準語の母音は多くて「이[i]、위[y]、우[w]、우[u]、외[ø]、에[e]、오[o]、애[ɛ]、어[ɔ]、아[a]」の10個、少なく見積もれば「이[i]、우[w]、우

* 情報コミュニケーション学部非常勤講師、Tsukuba Gakuin University

[u]、에[e]、오[o]、어[ɔ]、아[a]」の7個である²⁾。ところで、'위[y]'と'외[ø]'は今は世代や地域によって、それぞれ二重母音 [wi]と [we]に発音する傾向があるので³⁾、単母音として分類されない場合もある。現在の韓国の「標準語規定」の「第2部標準発音法(第2節の第4項の注)」でもこの'위[y]'と'외[ø]'は「二重母音として発音される」としている。また、日本人学習者のための韓国語テキストでは、一般的に「이[i]、으[w]、우[u]、에[e]、오[o]、애[ɛ]、어[ɔ]、아[a]」の8個を単母音としている。

そこで、本稿ではまず、これらの8個の単母音と日本漢字音における日本語の母音「あ、い、う、え、お」との対応関係を考察する。また、韓国語の母音字はこれら8個の単母音の他にも単母音の前に半母音「j」がついた音「야[ja]、여[jɔ]、요[jo]、유[ju]、예[je]、애[jɛ]」と、単母音の前に半母音「w」がついた音「와[wa]、왜[wɛ]、외[we]、위[wo]、웨[we]、위[wi]」と、二重母音「의 [wi]」があるので、これらの13個の母音と日本語の母音との対応関係についても考察することにする。

2. 1 単母音

韓国語の単母音「이[i]、으[w]、우[u]、에[e]、오[o]、애[ɛ]、어[ɔ]、아[a]」を日本語と対照した母音三角形は次の通りである。

野間秀樹 (2007: 228-229) は、日本語母語

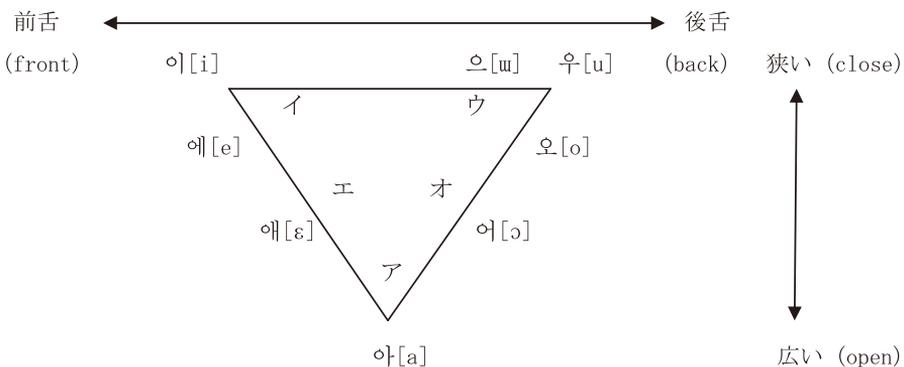


図1 母音三角形 (野間秀樹 (2007: 227))³⁾

話者には「아 [a]」と「이 [i]」はそれぞれ「ア」と「イ」に聞こえるとしている。《図1》で見ると、日本語の「ア」と韓国語の「아 [a]」、日本語の「イ」と韓国語の「이 [i]」は音声学的には同じ音ではない。たとえば、「이 [i]」は日本語の「イ」よりもさらに狭く、前よりの母音であるが、実際の発音では大きな違いが見られず、聴覚的にも違和感を認めない。권성미 (2007: 198) では、韓国語と日本語の単母音の実験音声学的な対象分析を行っているが、日本語学習者は日本語の [i] と [e] の調音方法をそのまま転移した結果、韓国人の発音する韓国語と同じような [i] と [e] が発音できたとしている⁴⁾。

一方、韓国語の「으 [w]」と「어 [ɔ]」はそれぞれ日本語の「ウ」と「オ」との音声学的な類似性が低いが、本稿ではこれらの違いについては触れない。

日本語と韓国語の単母音の対応関係をまとめると、次の《表1》の通りである。

表1 単母音

日本語	ア	イ	ウ	エ	オ
韓国語	아 [a]	이 [i]	우 [u]	에 [e]	오 [o]

2. 2 半母音と二重母音

半母音とは狭い母音と音声的な性質が似ていて、子音同様、音節の主音とはならない音を言う³⁾。たとえば、日本語の「ヤ [ja]、ユ

[ju]、ヨ [jo]」の [j] と「ワ [wa]」の [w] が半母音である。

韓国語では、単母音の前に半母音「j」がついた音「야[ja]、여[jo]、요[jo]、유[ju]、예[je]、애[je]」と、単母音の前に半母音「w」がついた音「와[wa]、왜[we]、외[we]、위[wɔ]、웨[we]、위[wi]」がある。また、韓国語には二重母音「의[ui]」もあるが、この「의[ui]」はその位置によって発音が変わるのが特徴である。たとえば、「의자(椅子)」のように語頭では「의[ui]」と発音されるが、「예의(礼儀)」のように語頭以外の場所では単母音化し、「이[i]」となる。また、「나의(私の)」のような助詞「の」は「에[e]」と発音される。

日本語と韓国語における半母音と二重母音の対応関係をまとめると、次の《表2》と《表3》の通りである。

表2 半母音 [j] がついた母音

日本語	ヤ	ユ	ヨ		イエ	
韓国語	야 [ja]	유 [ju]	요 [jo]	여 [jə]	예 [je]	애 [jɛ]

表3 半母音[w]がついた母音と二重母音[의]

日本語	ワ	ウエ			ウオ		ウイ
韓国語	와 [wa]	웨 [we]	왜 [wɛ]	외 [we]	워 [wɔ]	위 [wi]	의 [ui]

2. 3 長母音と短母音

長母音とは、日本語の「おばさん」と「おばあさん」の対立に見える、母音 [a:] のように長く発音される母音であり、単母音は [a] のように短い母音のことである³⁾。韓国の「標準語規定」の「第2部標準発音法(第3節の第6項)」によると、「母音の長短を区別して発音するが、単語の初音節でだけ長音が出るのを原則とする」など、韓国語にも母音の長短に関する規定がある。しかし、意味を区別する機能をする日本語の長母音と短母音ほど、韓国語では母音の長さが弁別的な機能を持たない。特に若い世代では強調のためなどに長母音として現れる場合を別にすれば、音

素としての長母音はほぼ完全になくなっていると考えてもよい³⁾。

3. 日本漢字音に対応する韓国語の母音

韓国語の文字の組み合わせは基本的に「初声(子音) + 中声(母音)」または「初声(子音) + 中声(母音) + 終声(子音)」であるが、本節では、日本漢字音に対応する韓国語の母音の対応を中心に考察する。また、日本漢字音は『広辞苑』に拠ったが、韓国語では日本語の呉音、漢音のどちらの表記も1つの文字にしか対応しないため、日本漢字音の呉音、漢音の区別については特に表記しない。なお、韓国語の漢字音との対応を考え、韓国語漢字音と一致するものやより近いものを優先的に取り上げた。また、日本語は、漢字1文字をひらがなで書くと2文字以上になる場合もあるが、韓国語では原則的に漢字1文字はハングルでも1文字になることも特徴である。

2節の《表1》に見るように、日本語の「ア、イ、ウ、エ、オ」と韓国語の単母音との対応関係は1対1で対応しないことが分かる。そこで、まず3.1節では長母音の韓国語表記について考察し、3.2節では日本語の漢字音に対応する韓国語漢字音について、それから3.3節では3.2節で対応していないその他の韓国語の母音を中心に考察することにする。

3. 1 日本語の長母音の場合

韓国語では日本語の「おばさん-おばあさん」、「おじさん-おじいさん」といった長母音の対立が意味上の弁別的な機能を持たない。また、韓国語では、外国語の表記においても伸ばす音である長母音は表記しないが、これは日本語をへボン式ローマ字で書く場合と同じである。たとえば、日本語においても、「太郎」、「東京」をローマ字で書く場合は、日本語の発音通りの「Tarou」、「Toukyou」ではなく、「Taro」、「Tokyo」と書く。日本語

の漢字音の長母音を韓国語に置き換える時は、このことを思い浮かべればよい。

3. 2 日本漢字音に対応する韓国語
 3. 2. 1 日本漢字音「ア、イ、ウ、エ、オ」に対応する韓国語

《表1》では日本語の「ア、イ、ウ、エ、

表4 日本漢字音「ア、イ、ウ、エ、オ」に対応する韓国語

ア	亜	아
カ	加・可・仮(假)*・価(價)・家・歌	가
サ	査・砂・詐	사
タ	多/他	다/타
ハ	波・派・破	파
マ	麻・摩・磨・魔	마
ラ	裸・羅	라(나)**
イ	異	이
キ	企・氣(氣)・汽・奇・祈・紀・記・起・飢・基・寄・期・器・機	기
ギ	技・宜・欺・義	기
シ	市・示・始・施・視・詩・試	시
ジ	持	지
チ	地・池・知・智・遲 治・値・恥・致・痴・稚・置	치
ヒ	比・非・秘・悲・費 皮・披・疲・被・避	피
ミ	未・味・魅	미
リ	利・吏・里・梨・理・裏・離	리(이)
ウ	右・宇・羽・雨	우
ク	九・区・句・驅	구
グ	具	구
フ	不・夫・父・付・扶・府・訃・負・赴・浮・婦・富・腐・膚・賦	부
ム	矛・務・無・霧	무
デ	弟	제
オ	汚	오
コ	古・固・孤・庫・故・雇・顧	고
ソ	素・疎・甦・蘇・疎・訴 阻(沮)・狙	소 저
ゾ	造	조
ト	凶・途・都・渡・塗・賭	도
トク	得	덕
ホ	保・補 哺・捕・舗	보 포
モ	模	모
ロ	炉・路・露	로(노)

*()内の漢字は韓国語の漢字である。
 ** ()の中は頭音規則が適応された場合の発音である。

オ」と韓国語の単母音との対応関係を見た
 が、それぞれを実際の漢字音と対応してみると、《表4》を見るように、日本語の漢字音「ア、イ、ウ、オ」は、原則的に韓国語の母音「아 [a]、이 [i]、우 [u]、오 [o]」に対応すると考えられる。

ただし、「(阻(沮)・狙(ソ)-저)」「徳(トク)-덕」などのように日本語の漢字音「ウ」が「어 [ə]」にも対応する場合もあるが、これら「오 [o]」に比べて少ない。また、日本漢字音「エ」が韓国語の「에」に対応する例は少なく(たとえば、「弟」の慣用音「(テ)-제」と「世」の呉音「(セ)-세」など)、「制(セイ)-제」「帝・堤・提(テイ)-제」「締・諦(テイ)-체」「憩・掲(ケイ)-계」などのように、日本語の漢字音「エイ」が韓国語の母音「에 [e]」に対応する場合が比較的に多い。さらに、「限(ゲン)-한(ハン)」のように、日本語の母音「エ」が韓国語の母音「아 [a]」に対応する場合もあるが、これはごくわずかである。

次の《表5》は日本漢字音の長母音「ウ」に対応する韓国語の場合だが、3.1節で述べたように韓国語では原則的に長母音は表記しないことから、これらは短母音と同じような表記になる。

表5 日本漢字音の長母音「ウ」に対応する韓国語

コウ	高・膏・稿・口・考	고
スウ	数	수
トウ	刀・到・倒・島・悼・陶・盜・道	도
ホウ	宝・報・褒 包・抱・抛・泡・砲・飽	보 포
ロウ	老・勞(勞)	로(노)

ところで、日本語の漢字音の「ウ、イ」は、韓国語の末子音「ㅇ [ŋ]」に対応する場合もあるので、注意が必要である(金珉秀(2010: 64))¹⁾。日本語の漢字音の「ウ、イ」が古い中国語の [ŋ] である場合は韓国語の末子音

「o [ŋ]」に対応するが、どれが中国語の [ŋ] であって、そうでないかを区別するのは難しいと思われる。しかし、韓国語では同じ音読みの漢字はすべて同じ発音になること、また同じ部首が入っている漢字は同じ発音になるので、これをヒントに韓国語の漢字音を発音すればよい。たとえば、同じ「コウ」と発音する漢字でも、《表5》の「高・稿・口」などは韓国語では「고 [ko]」と発音し、「工・功・攻・貢・控」などは「공 [kon]」と発音する。「口」は韓国語で「고」と発音するので、「口」が入っている「高、稿」もすべて「고」と発音し、「工」は「공」と発音するので、「功・攻・貢・控」などもすべて「공」と発音すればよいのである。

3. 2. 2 日本漢字音「ヤ、ユ、ヨ」に対応する韓国語

3. 2. 2. 1 「야[ja]、유[ju]、요[jo]・여[jø]」に対応する場合

次の《表6》に見るように、日本語の漢字音「ヤ、ユ、ヨ」は、原則的に韓国語の「야[ja]、유[ju]、요[jo]・여[jø]」に対応するが、日本漢字音「ヨ」の場合、短母音の場合は「여」に、長母音の場合は「요」に対応していることが分かる。

表6 日本漢字音「ヤ、ユ、ヨ」に対応する韓国語①

ヤ	野・夜	야
ユ	愉・油	유
ヨ	余・与(興)	여
ヨウ	要・曜・揺	요
キュウ	糾	糾
キョウ	教・橋・矯	교
ヒョウ	表・票・漂・標	표
リュウ	柳・留・流・硫・溜	류(유)
リョウ	了・料・僚	료(요)

3. 2. 2. 2 「아[a]、우[u]、오[o]・어[ə]」に対応する場合

日本漢字音「ヤ、ユ、ヨ」は、次の《表7》

のように、韓国語では半母音 [j] がなくなった単母音「아[a]、우[u]、오[o]・어[ə]」に対応する場合もある。

表7 日本漢字音「ヤ、ユ、ヨ」に対応する韓国語②

シヤ	社・舎・射・斜・写・捨・謝	사
	者	자
	車・遮	차
ジャ	邪	사
チャ	茶	차/다
ジュ	呪	주
	寿・受・授・需・樹・獸	수
キョ	居・拳・距・巨・去・拒・拠	거
ジョ	助	조
チョ	著・貯	저
リョ	虜	료
キュウ	久・旧(舊)・臼・求・究・救・球	구
シユウ	修・収・秀・羞・愁・酬・讐	수
	州・周・週	주
チュウ	宙・注・昼・柱・駐	주
	抽	추
ジュウ	住	주
ショウ	小・少・召・消・笑・燒(燒)	소
	照	조
ジョウ	肖(肖)・招・礁	초
	条	조
チョウ	兆・彫・眺・朝・鳥・跳・調・弔	초
	超	초

「糾(キュウ)」は韓国語で「糾[kju]」に対応するのに対し(《表6》)、《表7》の「久・旧(舊)・臼・求・究・救・球(きゅう)」などは「구[ku]」に対応する。また、「了・料・僚(リョウ)」は韓国語で「료[rjo]」に対応するが(《表6》)、「虜(リョ)」は《表7》に見るように「료[ro]」に対応している。このように、日本語の漢字音「ヤ、ユ、ヨ」は韓国語では半母音 [j] がついた「야[ja]、유[ju]、요[jo]・여[jø]」だけでなく、単母音「아[a]、우[u]、오[o]・어[ə]」に対応する場合があると考えられる。ただし、「遺(イ)-유[ju]」のような例外的なものもある。

ところで、この現象は韓国語の外国語表記と関連があると考えられる。たとえば、日本語の発音を韓国語で表記する場合、「ヤ、ユ、ヨ」を含むものはそれぞれ「야、유、요」と表記する。たとえば、「キャ-야 (야)、キュー-유 (유)、キョ-요 (요)」、「シャー-샤、シユ-슈、シヨ-소」などとなる（()内は語頭以外の場合）。たとえば、「東京(トウキョウ)-도쿄」、「九州(キウシュウ)-九州」となる。一方、日本語の「チャ、チュ、チョ」と「ジャ、ジュ、ジョ」を韓国語で表記すると、それぞれ「자(차)、주(추)、조(초)」「자、주、조」のように単母音で書くので、たとえば、「新宿(シンジュク)」は韓国語で「신주쿠」と書く。

3. 2. 3 日本語の旧仮名遣いの漢字音「ワ」に対応する韓国語の「와 [wa]」

日本語の「ワ」の漢字音は、原則的に韓国語の母音「와 [wa]」に対応する。たとえば、「和・話(ワ)」は韓国語で「와 [wa]」である。ところで、《表8》のように日本語の旧仮名遣いの「ワ」も現代韓国語の母音「와 [wa]」に対応する場合がある。

ただし、「狂(キョウ)-광」、「左(サ)-좌」、「撮(サツ)-촬」などのように、旧仮名遣いの「ワ」が含まれない場合も「와」と発音さ

表8 日本語の旧仮名遣いの漢字音「ワ」に対応する韓国語

王：オウ<ワウ*	왕
果・科・課・過：カ<クワ	과
館・官・冠・関・歓・観・慣：カン<クワン	관
完・緩：カン<クワン	완
丸・頑・玩：ガン<グワン	완
広・光・鉦(鐘)：コウ<クワウ	광
火・花・貨・画(書)：カ<クワ	화
環・喚・患・換・還・嘆：カン<クワン	환
皇・荒・黄・慌：コウ<クワウ	황
拡・確：カク<クワク	확
活：カツ<クワツ	활

*「<」のあとの表記が旧仮名遣いである。

れる場合がある。

3. 3 韓国漢字音に対応する日本語

2.1節の《表1》～《表3》に見るように、日本語母音1つに対して、韓国語では2つ以上の母音に対応する場合がある。3.2節では日本漢字音を中心にそれらに対応する韓国語漢字音について見てきたが、3.2節で見たように、実際の漢字音においては2.1節の《表1》～《表3》に見るような対応関係を成していないものも多い。そこで、本節では、3.2節で取り上げていない韓国漢字音を中心に考察する。

3. 3. 1 韓国漢字音「으 [u]」に対応する日本語

日本語の母音「ウ」に対応する韓国語の母音は「우 [u]」と「으 [u]」であるが（《表1》）、3.2.1節の《表4》に見るように、日本漢字音の「ウ」は原則的に韓国語の「우」に対応する。一方、次の《表9》に見るように、実際の日本漢字音「ウ」が韓国語の「으」に対応する場合は少なく、韓国漢字音「으」に対応する日本漢字音は「ウ、イ、オ、エ、

表9 韓国漢字音「으」に対応する日本語

コウ	肯興	궁흥
トウ	灯・登・等・騰	등
イン	陰・淫・飲・隱	음
キン	金・禁・琴	금
ギン	銀・吟	은
オン	音	음
オツ	乙	을
ソク	測・側	측
トク	特得	특득
ゲキ	劇	극
キユウ	及・急・級・給	급
シユウ	拾・習・襲	습
ジュウ	汁	즙
シヨウ	承・昇・勝	승
ジョウ	蒸	증

ユ、ヨ」など、様々である。

3. 3. 2 韓国漢字音「애 [ɛ]」に対応する日本語

《表1》によると、韓国語の母音「애 [ɛ]」の発音は日本語の母音「エ」に似ているが、次の《表10》に見るように、実際には日本漢字音の「アイ」が「애」に対応する場合が多い。

表10 韓国漢字音「애」に対応する日本語

カク	核	핵
バ	罵	매
カイ	解・海・介・改・皆・開	개
ガイ	害・該	해
サイ	概・蓋・亥・凱・慨	개
	涯	애
ザイ	再・濟・才・災・裁・載	재
	菜・債・彩・採・栽	채
タイ	在・材・財	재
	胎・態・太・怠・泰	태
ダイ	帶・対・隊・待・貸	대
	忍	내
ナイ	大・代・台	대
	内	내
ハイ	拝・輩・俳・排・背・配	배
	敗	패
バイ	倍・培・賠	배
	売・媒・梅・買	매
マイ	每・枚・埋・妹	매
ライ	来	래 (내)

ただし、「界・階・戒・械(カイ)-계」「会・回・悔・懷・繪(カイ)-회」「快(カイ)-쾌」「怪・塊・壞・拐(カイ)-괴」「街(ガイ)-가」「外(ガイ)-외」「祭・際・濟・劑(サイ)-제」「歳・細(サイ)-세」「妻(サイ)-처」「最(サイ)-최」「碎(サイ)-쇄」「罪(サイ)-죄」「体・替・滯・逮(タイ)-체」「退(タイ)-퇴」「第・題(ダイ)-제」「肺・廢(ハイ)-폐」「雷・頼(ライ)-뢰」などのように、日本漢字音「アイ」が「애」以外の母音と対応するものもある。

また、「液・易(エキ)-액」「生・牲(セイ)-

생」「責(セキ)-책」「冷(レイ)-랭」「個(コ)-개」「更(コウ)-갱」「行・幸(コウ)-행」「萌(ホウ)-맹」「孟・盲・猛・網(モウ)-맹」「厄(ヤク)-액」「客(キヤク)-객」「百(ヒヤク)-백」「脈(ミヤク)-맥」などのように、韓国漢字音「애」に対応する日本語の母音は「アイ」だけでなく、「エ、オ、ヤ」などのように様々である。

3. 3. 3 韓国漢字音「어 [ə]」に対応する日本語

《表1》のように韓国語の母音「어 [ə]」に対応する日本語の母音は「オ」である。ところが、たとえば「阻(沮)-狙(ソ)-저」「徳(トク)-덕」などのように、日本漢字音「オ」が韓国語の母音「어」に対応する場合は少なく、韓国語の母音「어」に対応する日本語の母音は、次の《表11》のように「エ、ヨウ、ヨ」などに対応する場合が多い。

ただし、「ヨウ」の場合は、「小・少・召(シヨウ)-소」のように「오 [o]」に対応するもの、「承・昇・勝(シヨウ)-승」などのように「으 [u]」に対応するものもある。

3. 3. 4 韓国漢字音「어 [jə]」に対応する日本語

《表1》のように韓国語の母音「어 [jə]」に対応する日本語の母音は「ヨ」である。ところが、たとえば、「侶・旅・慮(リヨ)-려(여)」「女(ジヨ)-녀」「如(ジヨ)-여」などのように、日本漢字音「ヨ」が韓国語の母音「어」に対応する場合は少なく、3.3.3節の「어」と同様、「エ、ヨウ、ヨ」に対応する場合が多い(《表12》)。

ただし、同じ「ケン、ゲン」の漢字音を持つものであっても、たとえば、「権・券・拳・圈・權(ケン)-권」「減(ゲン)-감」「元(ゲン)-원」「嚴(ゲン)-엄」「幻(ゲン)-환」「限(ゲン)-한」などのように韓国語では様々な母音に対応する場合もある。

表 11 韓国漢字音「어」に対応する日本語

ケン	件・健・建	건
	劍・儉・檢	검
	憲・獻	헌
	險	협
ゲツ	傑	걸
ゲン	言	언
セイ	正・征・政・精・靜・整	정
	靑・淸・晴・請	청
セキ	石・席	석
セン	先・線・選	선
	戰・栓	전
	泉・千・仙	천
テイ	低・底・抵・邸	저
	定・貞・訂・庭・停・偵・程	정
テツ	鉄・哲・徹・撤	철
テン	展・典・転	전
	天	천
	店・点	점
キョウ	怯	겁
ギョウ	業	업
シヨウ	涉	섭
	晶	정
ジョウ	淨・情	정
チョウ	頂	정
シヨ	書・庶・暑・署	서
	処・初	처
ジョ	序・叙・徐	서
チヨ	著・貯	저
シャク	積	석

表 12 韓国漢字音「어」に対応する日本語

エキ	駅	역
ケイ	兄・刑・形・型・螢	형
ケツ	欠・決・結・潔	결
	穴・血	혈
ケン	犬・堅・絹・肩・遣	견
	兼・謙	겸
	県・賢・顯	현
	研	연
ゲン	玄・現	현
ヘイ	兵・併・並	병
	平	평
レイ	励・麗	려 (여)
	零・靈・齡	령 (영)
レツ	列・劣・烈・裂	렬
キョウ	京・鏡・競・驚	경
リョウ	領	령 (영)
	獵	렵 (엽)
ジョウ	剩	여
ヒョウ	評	평
ビョウ	病	병
リョ	侶・旅・慮	려 (여)
ジョ	女	녀
	如	여
ヤク	役・訳	역
ギャク	逆	역
コウ	耕	경
	衡	형
	協・狹 (狹)・脅	협

3. 3. 5 その他の母音との対応

その他の母音と日本語の漢字音の対応は次の《表13》の通りである。

「예 [je]」は「アイ、エイ、イ」などに対応し、「애 [jɛ]」に対応する日本漢字音はない。「위 [wi]」に対応する日本漢字音は「イ、ウイ、ユ、ユウ」など、様々である。「의 [wi]」は日本漢字音「イ」に対応するが、3.2.1節で考察したように、基本的には日本漢字音「イ」は韓国語の母音「이 [i]」に対応する。「웨 [we]」に対応するものは「軌・机 (キ)-궤 [kwe]」くらいである。「왜 [wɛ]」に対応するものは「アイ、サ、サツ」

などで、他に比べ特別な対応関係はないと考えられる。また、「외 [we]」は「アイ」に対応するものが多いが、「カク、スイ、ノウ」などにも対応することが分かる。さらに、「위 [wɛ]」はすべてが「エ」に対応するが、これは旧仮名遣いの「エ」に対応するものと考えられる。

表 13 その他の母音との対応

예	カイ	界・階・戒・械	계
	ハイ	胚・廢	폐
	ケイ	契・系・係・計・啓・繼・憩・鷄	계
		恵	혜
	ゲイ	芸	예
	ヘイ	陞・閉・幣	폐
	レイ	礼(禮)・例	례(예)
キ	季	계	
애	対応ナシ		
위	イ	位・委・威・為・胃・緯・偉・圉	위
		彙	휘
	キ	鬼・貴	귀
		危・揮	위 휘
	スイ	炊・醉(酔)	취
	シユ	取・趣	취
シユウ	就・臭	취	
의	イ	衣・医・意・依	의
	キ	希(稀)・喜	희
웨	キ	軌・机	궤
왜	カイ	快	쾌
	サイ	碎	쇄
	サ	鎖	쇄
	サツ	刷	쇄
외	カイ	怪・塊・壞・拐	괴
		会・回・悔・懷・絵	회
	ガイ	外	외
	サイ	最	최
	ザイ	罪	죄
	タイ	退	퇴
	ライ	雷・頼	뢰
	カク	獲	획
	スイ	衰(衰)	쇠
ノウ	腦・惱	뇌	
위	エツ<エツ*	越	월
	エン<エン	園	원
	ゲツ<グエツ	月	월
	ケン<クエ	權・券・拳・圈・權	권
	ゲン<グエン	元	원

*「<」のあとの表記が旧仮名遣いである。

4. 日韓漢字音の母音対応のまとめ

日韓漢字音の母音の対応関係をまとめると、次の通りである。

(1) 日本語の漢字音の長母音は韓国語で表記しない。

(2) 日本漢字音「ア、イ、ウ、オ」は、原則的に韓国語の「아、이、우、오」に対応するが、日本漢字音「ウ」が「어」に対応する場合もある。また、日本漢字音「エ」が「에」に対応する場合は少なく、日本漢字音「エイ」が「에」に対応する場合が比較的に多い。

(3) 日本漢字音「ヤ、ユ、ヨ」は韓国語では半母音 [j] がついた「야、유、요·여」だけでなく、単母音「아、우、오·어」に対応する場合もある。

(4) 日本語の「ワ」の漢字音は、原則的に韓国語の母音「와 [wa]」に対応するが、日本語の旧仮名遣いの「ワ」も現代韓国語の母音「와 [wa]」に対応する場合がある。

(5) 日本漢字音の「ウ」は原則的に韓国語の「우」に対応する。また、日本漢字音「ウ」が韓国語の「으」に対応する場合は少なく、韓国漢字音「으」に対応する日本漢字音は「ウ、イ、オ、エ、ユ、ヨ」など、様々である。

(6) 韓国語の母音「애」の発音は日本語の母音「エ」に似ているが、実際には日本漢字音の「アイ」が「애」に対応する。また、韓国漢字音「애」に対応する日本語の母音は「アイ」だけでなく、「エ、オ、ヤ」などのように様々である。

(7) 日本漢字音「オ」が韓国語の母音「어」に対応する場合は少なく、韓国語の母音「어」に対応する日本語の母音は「エ、ヨウ、ヨ」などに対応する場合が多い。

(8) 日本漢字音「ヨ」が韓国語の母音「여」に対応する場合は少なく、韓国語の母音「여」に対応する日本語の母音は、「어」と同様、「エ、ヨウ、ヨ」に対応する場合が多い。

(9) 「애」に対応する漢字音はなく、「위」は旧仮名遣いの「エ」の日本漢字音「エ」に対応すると考えられる。また、二重母音「의」は日本漢字音「イ」に対応するが、その他の半母音がついた韓国漢字音に対応する日本漢

字音は様々である。

参考文献

- 1) 金 珉秀 (2010) 「日韓漢字音の対照研究－子音（初声と終声）の対応を中心に－」『筑波学院大学紀要』 5、筑波学院大学
- 2) 油谷幸利 (2007) 「朝鮮語母語話者による朝鮮語教育」『韓国語教育論講座 第1巻』（野間秀樹編著）、くろしお出版
- 3) 野間秀樹 (2007) 「音声学からの接近」『韓国語教育論講座 第1巻』（野間秀樹編著）くろしお出版
- 4) 권 성미 (2007) 「한국어 단모음 습득에 대한 실험음성학적 연구: 일본어권 학습자를 중심으로」梨花女子大学大学院、博士論文